

令和4年度函館市福祉のまちづくりフォーラム

地域共生社会の実現において求められる  
3つのこと

～地域包括支援センターでの日々をとおして～

R5.3.20

金沢市地域包括支援センターとびうめ

中 恵美(なかえみ)

## 今日のお話

自己紹介(地域包括のことなど)

地域共生社会の実現において求められる3つのこと



共通点は？違いは？  
クイズや考えてみよう  
コーナーも入れるので、  
よかったら対話しながら  
らきいてくださいね

# 自己紹介 (金沢市のこと、地域包括のこと そして、お互いのこと)

金沢市 (R4. 4. 1)  
人口446, 446人 (中核市)  
高齢化率27. 3% 世帯数211, 685  
地域包括支援センター19ヶ所  
ランチ2ヶ所  
地区社協54ヶ所 (概ね小学校区)

金沢市内地図  
とびうめ包括は  
19か所ある  
日常生活圏域の  
一つを担当  
(まちなかの  
小さなエリア)

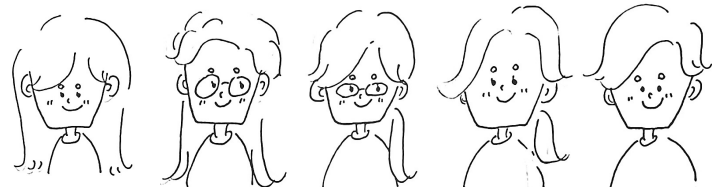


## 金沢市地域包括支援センターとびうめ

担当エリアは概ね小学校区2つ分  
人口11, 475人 6, 307世帯



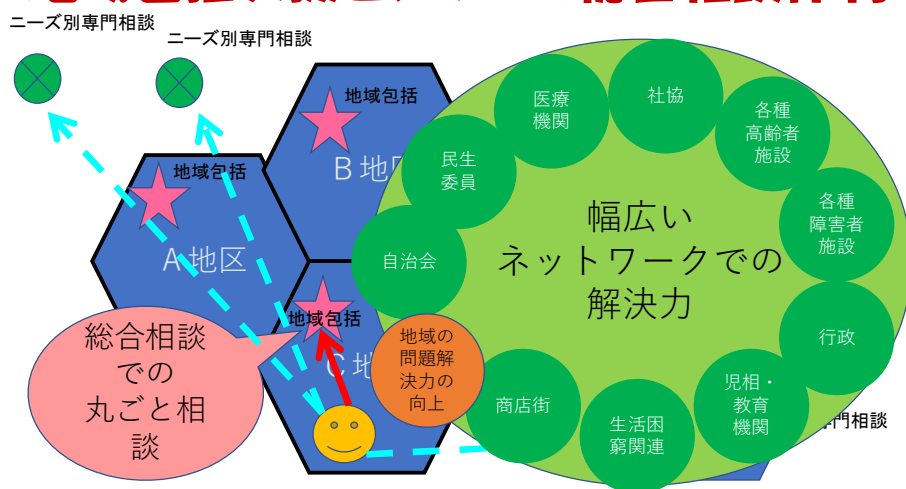
小立野地区  
人口7, 579人 (65歳以上 : 2, 160人)  
高齢化率28. 4% 世帯数4, 037  
新竪地区  
人口4, 132人 (65歳以上 : 1, 483人)  
高齢化率35. 9% 世帯数2, 270



センター職員数5名 + 事務職員1名

資格内訳 (保健師 2 ・ 看護師 2 社会福祉士 3 精神保健福祉士 1 公認心理師 1  
認知症地域支援推進員 4 主任介護支援専門員 2 介護支援専門員 4)

## 地域包括支援センターの総合相談体制



地域で生じたニーズを地域の力やネットワークで解決していく仕組みの構築

### とびうめ(=地域包括支援センター)の特徴

- ① 身近な地域の側に窓口がある
- ② あらゆるニーズをワンストップで
- ③ 医療・福祉の専門職がチームで対応
- ④ 24時間365日相談できる
- ⑤ 「個を地域で支える」と  
「個を支える地域をつくる」

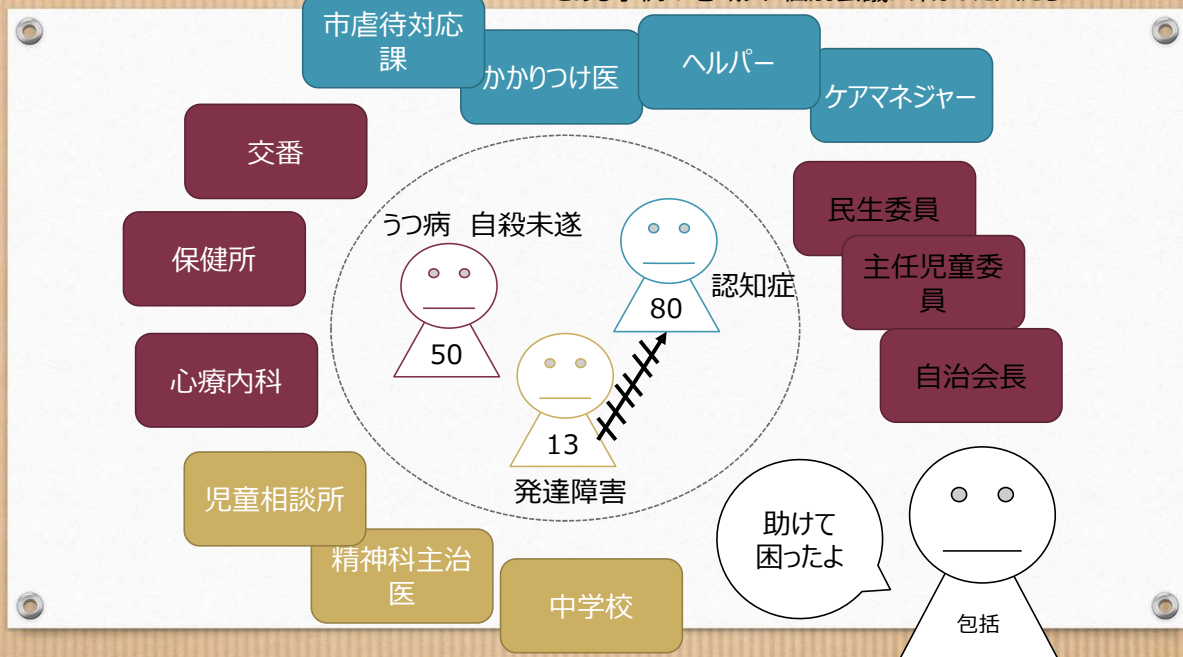
の一体的展開

## アウトリーチとは

「近隣をベースにした機関において、ソーシャルワーカーがサービスを自宅や通常の生活現場に出前したり、サービス利用の可能性に関する情報を提供したりする活動」ソーシャルワーク辞典第6版Baker.2014:305

敷居をまたぐこと アウェイではなくホームでの支援が可能となる

とある事例の地域ケア個別会議に集まった人たち



## 地域ケア個別会議 参加者例

インフォーマルとフォーマルの多様な参加者と工夫

フォーマル  
(かかりつけ医  
療、警察、行政、  
社協、施設  
などなど)

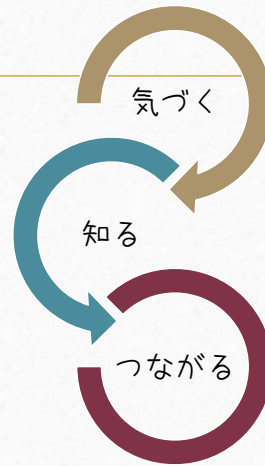
インフォーマル  
(本人、家族、友人、  
知人、弟子、民生委員  
自治会長などなど)



## 2. 地域共生社会の実現において 求められる3つのこと

---

## 地域共生社会の実現にむけて求められる3つのこと



## ここから、チームになっておきますか

1. みなさん、一度お立ち下さい
2. 運命を感じた人と2～3人一組になってください
3. グループになった組からお座りください
4. 自己紹介をしておきましょう（氏名＋お立場＋春になったらやりたいこと）

ひとつめ:気づく

気づく

地域共生社会の実現にむけて求められる3つのこと


気づく

知る

つながる

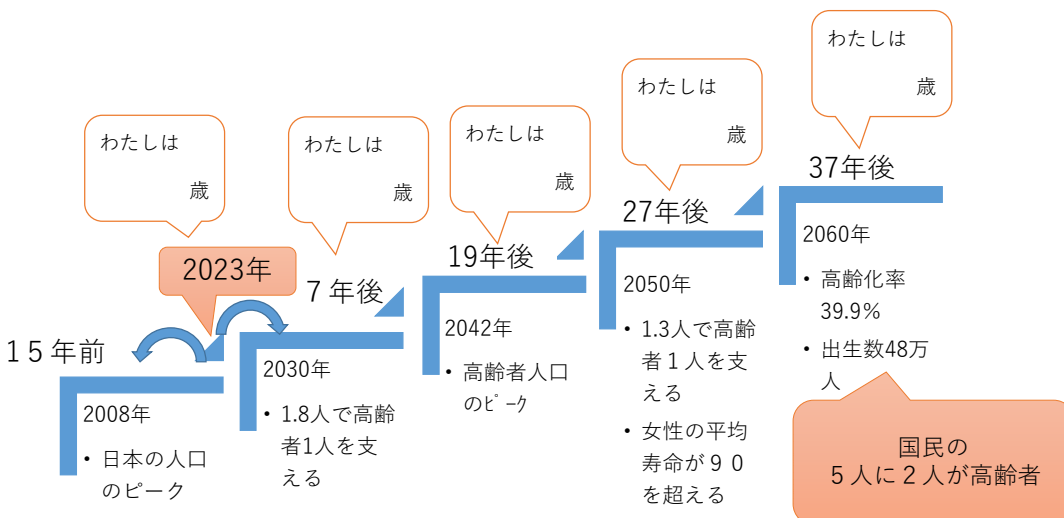
ひとつめ  
気づく

なぜ、今、地域共生社会なのか？ 気づく



私たちはこれからどんな社会を迎えるのかその影響から考えてみる

わが事として、自分の人生に落とし込んで考えてみると・・・



15年前

2008年  
• 日本の人口のピーク

2023年  
わたしは 歳

7年後

2030年  
• 1.8人で高齢者1人を支える

19年後

2042年  
• 高齢者人口のピーク

わたしは 歳

27年後

2050年  
• 1.3人で高齢者1人を支える  
• 女性の平均寿命が90を超える

わたしは 歳

37年後

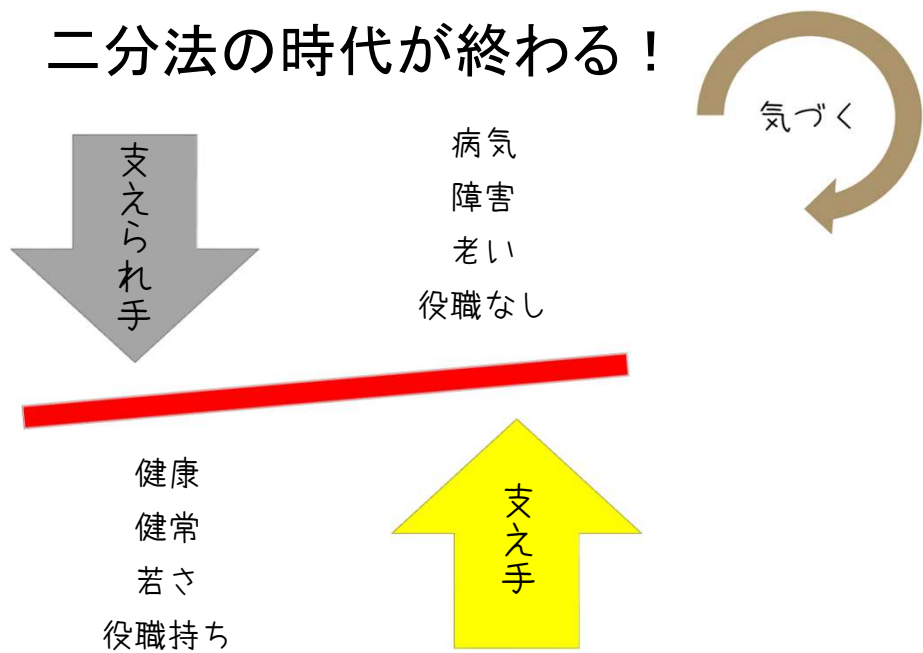
2060年  
• 高齢化率39.9%  
• 出生数48万人

国民の5人に2人が高齢者

私が〇〇歳の時にどんな地域になっているのか想像してみよう！



# 二分法の時代が終わる！



× 二分法しない ○ 二分法できない



## 地域共生社会とは

- 制度・分野ごとの『タテ割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて
- 地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、
- 人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、
- 住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会
- 今後の福祉改革を貫く「基本コンセプト」

## 「地域共生社会とは」が問われている

理念？ 政策？ 制度？ 文化？ どの部署が担当？  
住民がやるの？ 行政がやるの？

どういう  
枠組みで  
とらえたら  
いいの？



だれを  
主語に  
考えたら  
いいの？

## 地域共生社会の理念

- すべての人が
- 地域の中で
- 誰もが共に生きていく
- これからもそんな地域が存続していくように
- ノーマライゼーション
- ソーシャル・インクルージョン
- ダイバーシティ
- SDGs (サステイナブル)

いわば、「あたりまえ」の考え方

その実現の「むずかしさ」に向き合ってきた

そこには「人間の二面性」「地域の二面性」がある

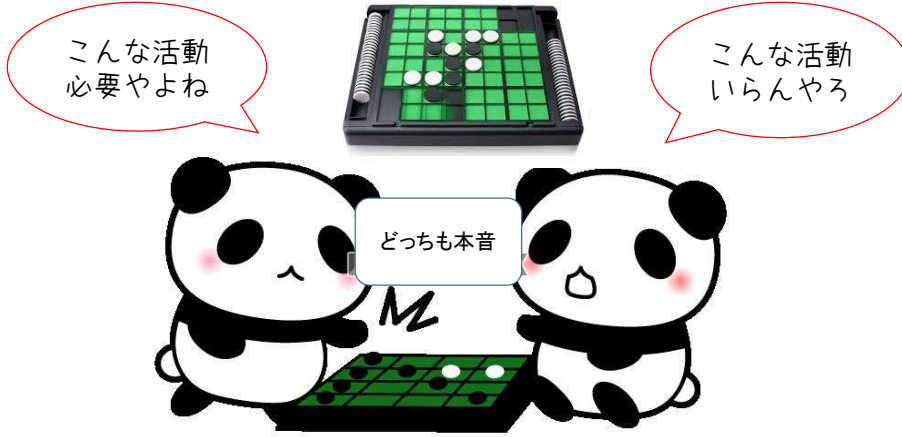
なぜ、今、  
「地域共生社会」なのか？  
自分のことばで伝えていく  
そこからはじめてみる



ここまでの話を  
きいて  
感じたこと、  
気づいたこと  
を  
周りの人と  
シェアする

気づく

## 地域に住む人たちの考え方は表裏一体

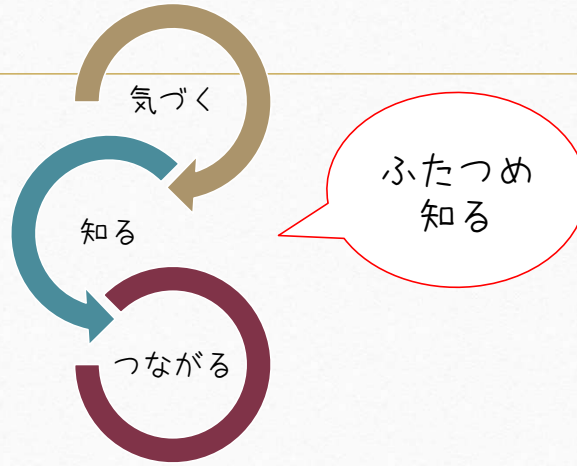


• 気づいた人からはじめよう

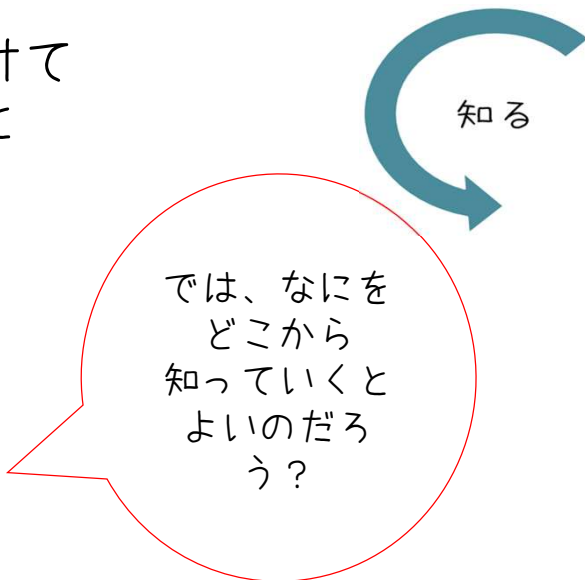
ふたつめ:知る

---

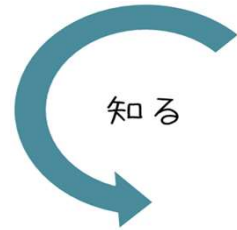
# 地域共生社会の実現にむけて求められる3つのこと



地域共生社会にむけて  
知っておきたいこと



## 事例から知る・学ぶ 「私の課題」は「私たちの課題」



- 実際に地域でおこっている事例には説得力がある
- あくまで個人のもつ個人の課題ではあるけれど
- 事例の問題分析の際には、ふたつの視点がある
- 個人因子と環境因子
- 地域のなかで暮らす人のかかえるある人の「生活のしづらさ」は、地域という環境因子の影響も少なからずある
- まずは、身近な事例に目や耳を向けてみる
- そうすれば、その活動は大きくずれない

## こんな事例が地域にあることを知る (事例 その1)



- 地域のなかの認知症の人の行動が問題に
- 家族、地域、専門職で地域ケア会議（随時）
- 家では起きていない問題行動だった
- 家とデイでの様子しか知らなかったケアマネ
- 地域は知らなかったから110通報に至った
- →本人、家族、地域の思いを知り合う
- →それぞれにできることを考え合って行動する

## (その2)

- 地域で起きた孤独死事例
- 地域ケア会議（定例）で
- 振り返りをおこなった
- →町連会長名で
- 「あったかいおせっかい」
- 推進の全戸回覧

平成29年11月24日

校下の皆様へ 【回覧願います】

小立野社会福祉協議会  
小立野町会連合会

**“孤独死”を出さないために（お願い）**

ここ数年、校下に於いて、一人住まいの方がお亡くなりになられ、周囲がその事に、数日間気付かずといったという痛ましい事態が発生しています。

これは先月起きた事ですが、新聞の集金の方が訪問した時、声をかけても返事がない、配達された新聞がガラス戸越しに何日間分溜まっている。これはおかしいと気づき地域包括支援センター“とびうめ”に連絡。とびうめは地域担当の民生委員と一緒に訪問し、異常事態という事で、警察に連絡。その結果、死後数日の状態で発見されたものです。

この新聞社では、配達員や集金人は、特に高齢者の家庭、一人住まいの住居については、なにか異常と感ずることがあれば、直ちに関係先に連絡、対処するという体制になっているそうです。また最近では、郵便局（配達人）の他、宅配便会社等でも、同様な行動体制をとっている会社もあります。

しかしながら、いざというとき頼れるのは、やはり近所の方の力です。当たり前であったご近所との往来が希薄となり、苦手、面倒といった声を聞きます。認知症サポーター養成講座でもお願いしましたが、『温かいお節介をする勇気』を皆さんが少し意識して頂き、近所の方の状況を見つめ直し、一人ではどうしていいかわからない時は周りの方とも相談し、痛ましい事態が起こらないような心使いをお願いする次第です。

何かある、何かが起きているのでは？と思ったときは、  
地区民生委員に相談頂くか、  
金沢市地域包括支援センター“とびうめ”（夜間も対応します）  
へご連絡下さい。

↓

**金沢市地域包括支援センター“とびうめ”**  
☎ 076-231-3377です。

### （丸ごと）

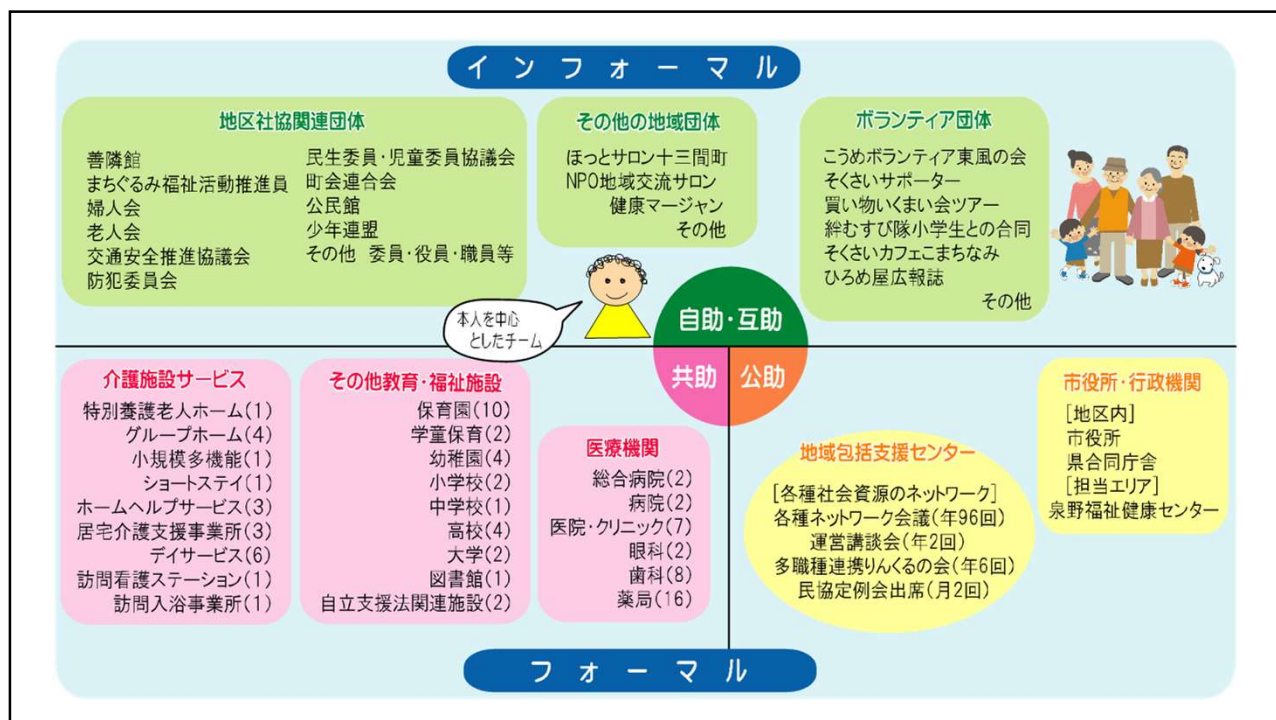
- 我が事を支える丸ごと
- 自分でひいた線をはみでる
- 伸びしろよりのりしろ

### （我が事）

- →見える→知る
- 関心をもつ
- かかわる
- うごく
- 関係が変わる
- 地域へ波及



一つの事例が地域を変えるってそういうぐるぐる  
**事例にはじまり、事例にかえる**



## 例 そくさいねっと 学生によるききとり調査

- ・対象：新豎町地区にお住まいの方97人
- ・年齢：66歳～96歳
- ・調査者：民生委員と金沢大学学生
- ・方法：訪問によるききとり
- ・内容：ふだんの生活の様子、ボランティアへの関心、困りごと

振り返ると  
どんな地域活動  
も、地域のニー  
ズを知るところ  
からはじまる



## 調査結果

66-74歳 (17人)	お元気な方が多く、自分たちは、地域のサポート提供側であるという自覚がある。
75-79歳 (25人)	サポートを受ける側・提供する側として両方の意見がある。
80-84歳 (29人)	日常的な行動も負担になる人が増え、サポートが必要になる。話し相手がほしいという意見が目立つ。
85-96歳 (26人)	友人と会う機会が減り、精神的なさみしさが募っている。

### (日常的なもの)

1. ゴミ出し、買い物
2. 冬場の除雪
3. 情報交換の場がほしい
4. 年とともに友人が家にこなくなった
5. 体力の低下と共に力仕事ができなくなった

### (精神的なもの)

体力の低下と共に気持ちがめいっていく様子が伺える  
80歳以上は各種行事に参加しにくくなる。

当初、日常的なちよとしたボランティアを求めている人が多いのではと、支え合い活動の目的としていた

調査で知ることができた地域ニーズは人との交流の機会のほうが多かった

## 新築そくさいねっと1年目はここから

### ・「町会福祉関係者座談会」

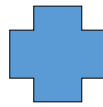
- 町内の福祉事情に明るいまみなさまに、
- ①日頃の悩み、課題とされていること  
(困りごとや不便に思うこと、これから必要なこと)
  - ②何気なく行っている支えあいの取り組み  
(現在できていること、身近にある支え合い事例)

を自由な語りをとおして、教えていただき、  
地区全体で共有財産としてつみあげていく

## なぜ座談会をするのか

- 新しい地域に新規事業をするのではない
- どんな地域かを改めて校下全体で共有する
- その上で、必要なものを足していくこと

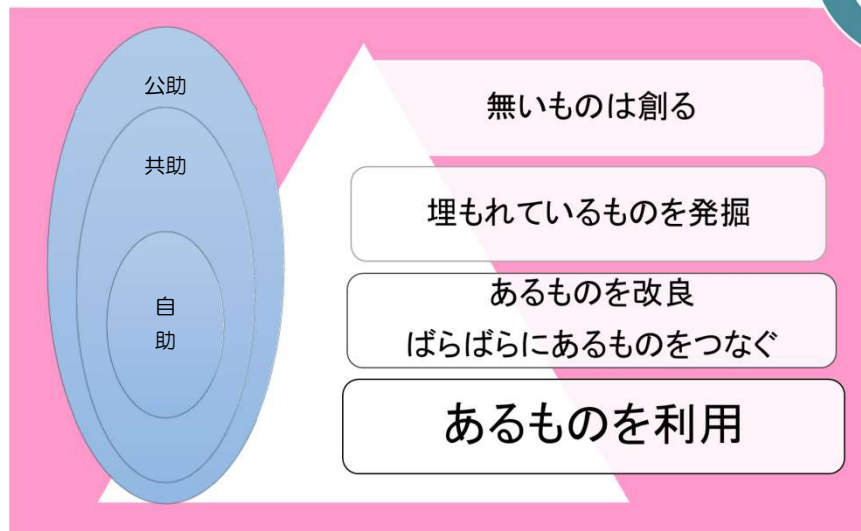
新豎地区がすでにもっている  
「地域における連帯」  
「豊かな福祉の土壌」



これからの新豎地区に  
さらに  
必要なものは？

## 資源の活用・開発の考え方

知る



## 目印シール

- 民生委員

- 町会長

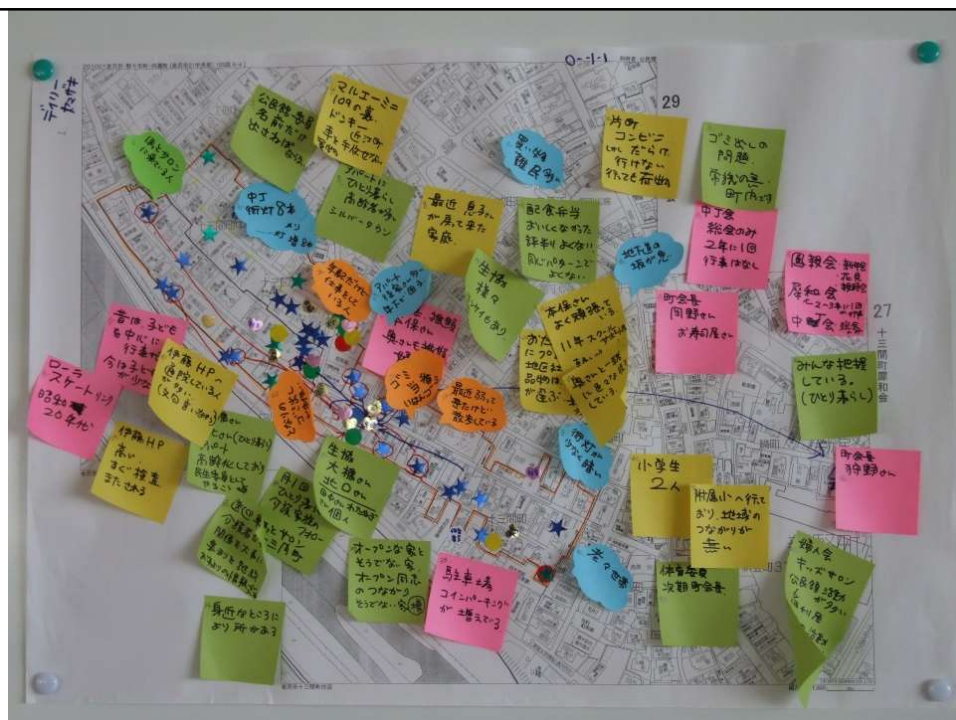
- 町ぐるみ福祉活動推進員

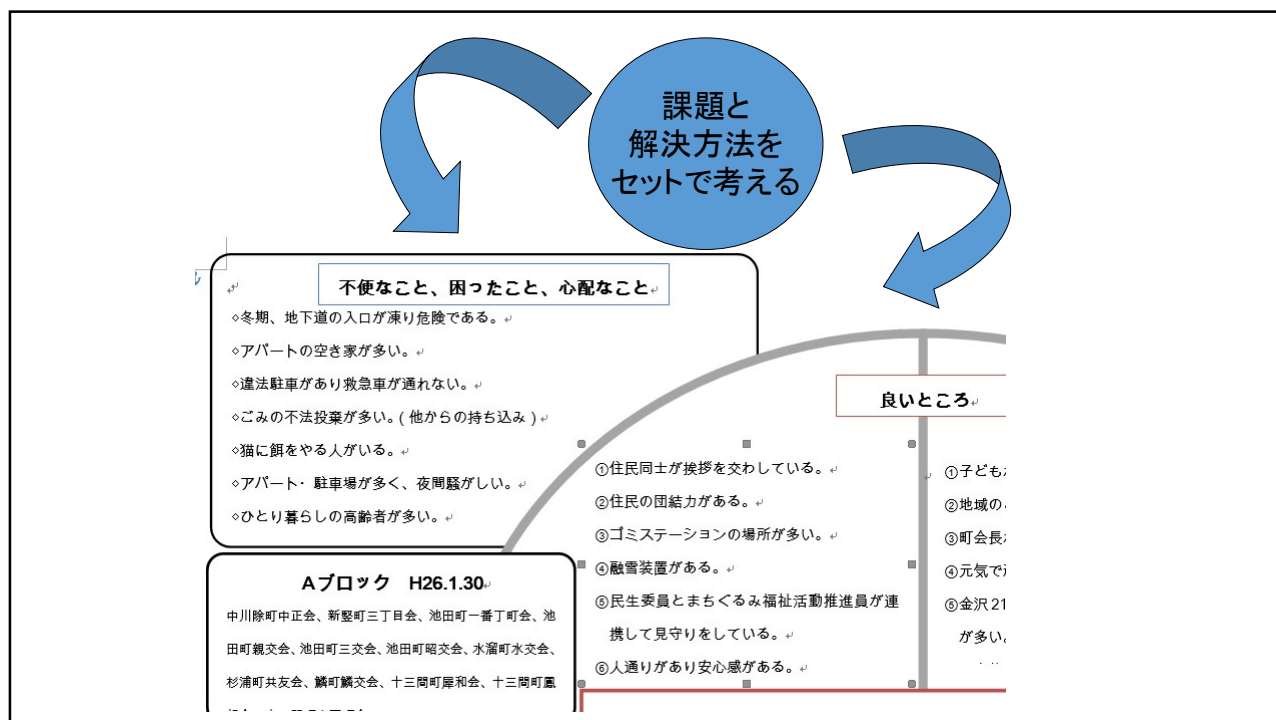
- 婦人会

- 困りごとや不便と感じていること

- 人財（地域の中でがんばっている人）

- 所財（人が集まる所、おすすめスポット）





## マイナス面（弱み）とプラス面（強み）の活用

### ○ マイナス(弱み)

地域の課題＝目標へつなげる

### ○ プラス(強み)

課題解決のための介入の系口や対応方法  
に使える資源となる可能性が大きい。

## 買い物んいくまい会



電話で予約



ご自宅まで



## そくさいカフェ・こまちなみ



毎回、いろいろなイベントを企画して、みなさんに喜ばれています。



# きずなむすび隊



小学生と紙工芸品を作り



高齢者宅へお届けしました



調理師専門学校の協力で



昼食弁当の食事会を開催しました

# ひろめ屋



それぞれの活動をまとめた広報誌の発行

## こうめボランティア東風の会と取組 例

- ・平成21年から活動 ボランティア養成講座の卒業生で組織化
- ・昔ながらの「お互いさま」の関係を大事にしていくコンセプト
- ・個別ニーズへの対応と、地域を元気にする活動を中心に行っている。



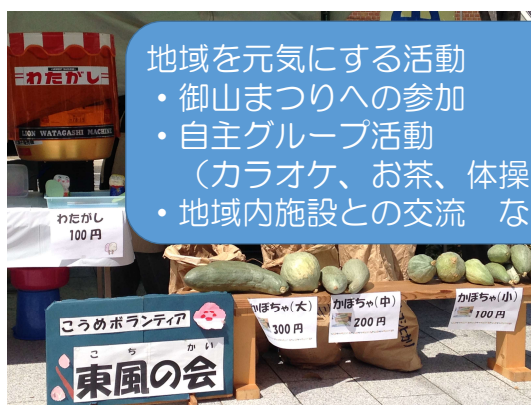
### 個別ニーズへの対応

- ・1人暮らしの方の話相手
- ・草むしり
- ・外出の付き添い など



### 地域を元気にする活動

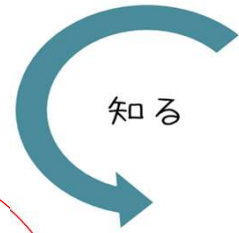
- ・御山まつりへの参加
- ・自主グループ活動  
(カラオケ、お茶、体操)
- ・地域内施設との交流 など



## R4 牧会長ともしび賞 受賞 推薦文

- ・(前半略)
- ・これまで「支えられる側」としかみなされていなかった高齢者を積極的にボランティアとして登用することで、高齢者自身が年をとっても尚いきがいや介護予防、健康づくりへの意識を高めることにつながった。その結果、「支え手」として地域のボランティアに参画しようとする高齢者も数多く生み出している。
- ・また、従来のボランティア活動は施設への友愛訪問を中心だったが、候補者は東風の会での地域活動をとおして、地域で育ったボランティアが地域で活動できるという基盤づくりに大いに貢献した。
- ・さらに、ボランティア自身がなにかをしてあげる人から、自ら楽しみ、自らのために活動するという価値観の転換にも寄与している。実際に、小立野地区にある地域住民主体の集いの場の運営にも携わり、その参加者たちはいつも楽しそうに笑顔があふれる場となっている。
- ・以上のことから、ボランティアが特別な人がおこなう特別な活動というところから、普通の人がおこなう普通の活動として敷居を下げることもつながっている。候補者のボランティア活動は、地域において自発的かつ無報酬で誠実な福祉奉仕活動をおこなおうとする人たちの活動の輪のひろがりに大いに貢献している。

あなたのまわりには、  
どんな社会資源（人財、所財）  
がありますか



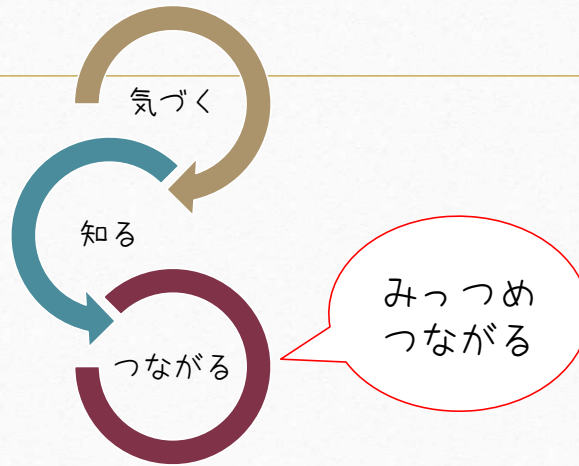
あなたが、  
見聞きしてい  
るよきものを  
周りの人と  
シェアする

みつつめ：つながる

---



# 地域共生社会の実現にむけて求められる3つのこと



地域共生社会にむけて  
つながりをつくる



では、なにを  
どこから  
つながって  
いくとよいの  
だろう？

人が集まるところにニーズが集まる←アウトリーチ



## 密

青春ってすごく密ってことば  
が流行語になりましたが、  
それを聞いたときに、  
第2の青春って、地域活動の  
ことだって言っていた方を思  
い出しました

- きょういく
- きょうよう
- みつこの「きん」が大事

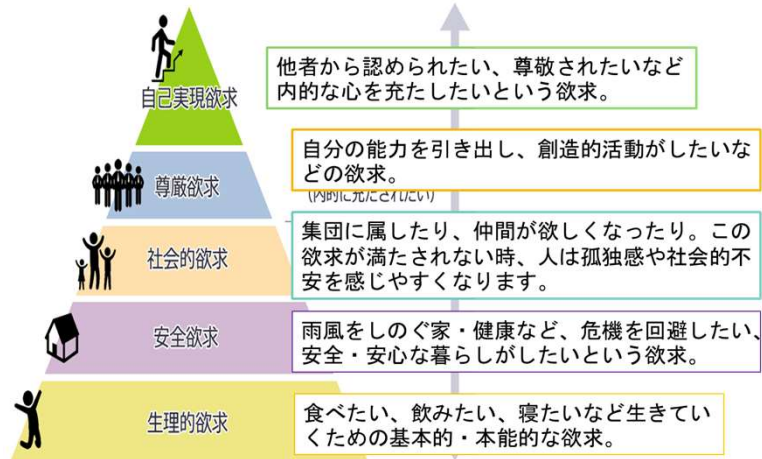


## 事例Ⅰ

- ・まだ生活困窮者自立支援法もなかったその昔
- ・地域包括が立ち上がって間もない頃に出会った忘れられない事例
- ・いわゆる生保アパートと呼ばれていたスポット
- ・管理人の病気をきっかけに、複数の住人とのかかわりに・・・
- ・住民同士の支え合いに学ばされることが多かったです



## 「自立」ってつながること 小さな地域づくりの物語



「自立ができれば社会に参加する  
のではない。自立のあり方は多面  
的であるが、

自立は個人で完結するものでは  
なく、社会への参加を通して自立  
が促されることは共通している。他  
者とのつながりのなかで自立して  
いくためのつながりの構築こそが  
求められる」

地域力強化検討会 最終とりまとめ (H29年9月12日)

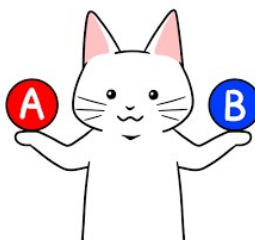
## 事例2

- ・この頃、考えるんです
- ・ICがどんどん発展して、支援プランもロボットが上手につくれる時代がくる
- ・それでも人間に、支援者の出番があるならば・・・



入り口はいつだってひとつじゃない。人によってちがっていい。

- ・かわいそう
- ・貧乏くさい
- ・めんどくさい
- ・かっこいい
- ・ダンディ
- ・おしゃれ



支えられる側

支える側

公的機関の支援を受ける対象に対する偏見

インボランタリーCLに対する医療機関の諦め

近隣住民に弱みを見せることに対する抵抗

支援をする側される側に二分されがちな偏見

キーワードは  
「多様性」



## (参考) ネットワークメンバーの人選

### 目的達成のために…

- ①正式な権限を持つ人  
(各団体の長)
- ②阻止する力を持つ人  
(影の実力者・キーパーソン)
- ③影響を受ける人  
(地域住民、各団体の実務者・・・人数が最も多い)
- ④関連情報・知識をもつ人  
(専門職・学識経験者等)・・・目的に応じて招集

## 人選していくときに気をつけておきたいこと

- 〇〇の人だけで、〇〇のことをしない

たとえば

- 福祉の人だけで福祉のことをしない
- 地域の人だけで地域のことをしない

だれかと話す、だれかとつながる、そこから

学びとは、  
「行動」を「変容する」こと



だれと  
つながって  
いきましょ  
う？

### その地域から私たちはいなくなっても 協働の足跡や経験は履歴として地域に残る

